

1 歴史学習で絵画資料を活用する意義

小学校第6学年の社会科教科書には、歴史学習において絵画資料が多く掲載されている。たとえば、平成27年版の第6学年社会科教科書「小学社会」（教育出版）には95点の絵画資料が示されている。掲載資料で一番多いのは写真（367点）であるが、図（67点）や地図（52点）、グラフ（38点）より多い掲載点数である（堀田ら2015）。また、蒙古襲来絵詞や長篠合戦図屏風のように一定のスペースを割いて掲載されている絵画資料も珍しくない。これらのことから、第6学年において絵画資料は、重要な学習資料の一つであるといえよう。（ここでいう昔の絵画資料とは、歴史資料のうち、絵巻物、屏風絵、風刺画といったように絵図で示されたものである。歴史資料ではないものの、各時代の様子を把握できる想像図も広義の意味で絵画資料に含めている。）

佐藤廣（1994）は、このような絵画資料について、「伝達される情報の質・内容の特性」として、社会事象のある場面の視覚的特徴について具体的な情報を提供できる点を指摘している。この指摘には私も共感する。たとえば、「元との戦い」の学習であれば、文字情報で伝達するより、絵画資料の蒙古襲来絵詞を読み取らせることで、具体的な戦いの様子について子どもたちはイメージ化ができる。他にも、佐藤は、「情報の読み取りの方法に関する特性」として、読み取りの進め方として、読み手の独自の関心や思考法などに応じた工夫を取り入れる余地が多いことも指摘している。これは絵画資料が子どもたちの関心を高めるものであり、幅広い読み取りが可能であることを物語っている。1枚の歴史絵画資料に子どもたちが興味をもち、様々な観点から読み取る授業は、歴史学習ならではのものであろう。

2 絵画資料に対する教師の意識

1で述べたように、歴史学習において絵画資料は重要な資料であるが、実際に指導するにあたって教師は、どのような意識で指導をしているのだろうか。「絵画資料の指導に関する意識調査」として、I市の社会科教育研究会において小学校教師23名を対象として、以下の3つの設問について質問紙調査を行い、それぞれ4件法で回答を求めた。

- ① あなたは、社会科の絵画資料を読み取る技能を児童が身につけることは大切だと思いますか。
- ② 社会科の絵画資料を、児童が読み取る場面の指導方法が決まっていますか。
- ③ 社会科で、絵画資料を児童が読み取る場面の自分の指導は十分だと思いますか。

①は絵画資料に関する読解技能の育成の重要性を問うものである。②は各教師の絵画資料の読み取りに関する、定型的な指導方法の有無について問うものである。③は絵画資料の指導方法に関する自己評価である。なお、設問①と③については、その理由も併せて自由記述欄に記入する形式とした。次のような結果になった。(括弧は割合を示している。)

	1 思わない	2 あまり思わない	3 ややそう思う	4 そう思う
①あなたは、社会科の絵画資料を読み取る技能を児童が身につけることは大切だと思いますか。	0 (0%)	0 (0%)	4 (17.4%)	19 (82.6%)

表1 絵画資料に関する読解技能の育成の重要性に関して (n=23)

設問①では、回答者の全員が、絵画資料の読解技能を児童が身に付けることの大切さについて「そう思う」あるいは「ややそう思う」と考えていた。そのうち8割以上が「そう思う」と回答しており、その必要性を強く感じていることが伺える。自由記述には、「多様な資料を読み取る力、そこから考察する力が必要」というように能力面の必要性、「絵画資料から時代背景を読み取ることができる」というように学習内容の理解のための資料としての必要性、「興味関心を高める」というように学習の動機づけからの必要性の3点が記載されていた。このことから、教師は絵画資料の読解技能を児童が身に付けることの必要性を強く認識しているといえる。

	1 決まっていない	2 決まっていないことが多い	3 決まっていることが多い	4 決まっている
②社会科の絵画資料を、児童が読み取る場面の指導方法が決まっていますか。	3 (14.2%)	9 (42.9%)	9 (42.9%)	0 (0%)

表2 絵画資料の読み取りに関する定型的な指導方法の有無について (n=21)

設問②では、全体の半数以上の教師が絵画資料の読解場面の指導方法が「決まっていない」、あるいは「決まっていないことが多い」という結果となった(合計57.1%)。また、「決まっている」と答えた教師はおらず、指導方法の難しさが伺える。

これに関連するのが次の設問③の結果である。

	1 満足していない	2 あまり満足していない	3 やや満足している	4 満足している
③社会科で、絵画資料を児童が読み取る場面の自分の指導は十分だと思いますか。	8 (36.4%)	12 (54.5%)	2 (9.1%)	0 (0%)

表3 絵画資料の指導方法に関する自己評価について (n=22)

設問③では、実に9割以上が「満足していない」「あまり満足していない」と答えた。自由記述にはのべ20件の理由が記載されており、そのうち11件が「指導の方法がわからない」「多様な読み取り、深い考察に至らせることができていない」等、自分の指導の不十分さを挙げたものだった。また、教材研究において絵画資料を教師自身が教材研究段階で読解することの大切さを指摘するものも3件あった。

これら3つの設問から、絵画資料の読解の重要性は認識しているものの、具体的な指導方法については確立しておらず満足していないという教師の姿が見えていく。その理由として、教師自身が絵画資料をどのように読み解き、解釈したらよいか理解不十分だということ、それに関連して絵画資料で何をどのように読み取らせるのかわからないことがあげられる。

教師自身が絵画資料について、読み取りの視点がなければ、児童に対する働きかけも不十分となり、期待する反応も得られない。その点では、絵画資料をどのような視点で読み取らせるのか明らかにすることが重要になってくる。その視点が定まれば、具体的な発問や指示等の指導言も決まってくる。

次回では、右の絵画資料について、どのような視点で読み取らせるか検討していく。読者の皆さんは、どのように解釈するだろうか。そして、どのような発問や指示を出すだろうか。先行研究及び教師の意識をもとに検討していきたい。



図1 自由民権運動の演説会

(『小学社会6上』教育出版 p.100

〈東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫所蔵〉)

※参考文献

- ・堀田龍也・新保元康・佐藤正寿(2015)『社会科重要資料の指導法30選6年生』(教育同人社)
- ・佐藤廣(1994)「歴史教育における絵画史料の活用に関する研究」(兵庫教育大学大学院修士論文)
- ・佐藤正寿・山田智之(2019)「小学校6年生社会科における絵画資料の読解に対する教師の意識と、絵画資料読解場面における発話に関する考察」(東北学院大学教育学科論集 第1号)